



楽しくのびのび少年野球

ニュー長瀬ドラゴンズ



創立41周年を迎えたニュー長瀬ドラゴンズの卒業生は、550人にも上ります。なかでも、現在中日ドラゴンズで活躍中の武藤祐太投手は、わがチームの星であり、子どもたちの目標となってくれています。

ドラゴンズは強さだけを追求するチームではありません。野球をとおして、礼儀、チームワーク、感謝の心なども指導しています。約10人のスタッフ、コーチで時に楽しく、時に厳しく、個々に合った指導で、野球の技術と楽しさを子どもたちに伝えていきます。



また、普通の学校生活ではなかなか体験できない子ども同士の縦横のつながりを作る事が出来るのも、チームでの活動の魅力です。スポーツ少年団という保護者の負担ばかりが強調

して伝わっている事が多々あるようですが、小学生時代という短く貴重な時期を家族で応援し、共通の話題で盛り上げられるのは保護者にとっても、とてもうれしいことです。保護者同士のつながりも深まり、家族ぐるみの交流も楽しめます。また、近年は保護者の負担を減らす方向に動いています。



少しでも興味のある人！ニュー長瀬ドラゴンズと一緒に少年野球を楽しみましょう！

練習日 土・日・祝日の午前中(午後1〜4時は自主練習を行います)。

場所 毛呂山小学校グラウンド

会費 年間2万4000円

問合せ ☎090-2228-1121 白石

キラリ輝いています!

作品から繋がる輪

牧野 章三さん (第13団地)



桑の木を磨いた作品。1年半ほど乾燥させてから、磨き上げます。

☆偶然の出会いとひらめきから

昨年の11月に第13団地集会所で趣味の作品展が行われ、和裁、絵画、手芸などの力作がそろいました。なかでも、自然の木肌や曲線を生かし磨き上げられた桑の木工作品は、完成度が高いと評判になりました。作者は牧野章三さん76歳です。

子どもころから器用だった牧野さんは、故郷の新潟で修行し、長年家具作りなどの職人として勤め上げました。冒頭の桑の木工作品の製作を始めたきっかけについて、「定年後に散歩で大谷木地区に行ったとき、最近少なくなってきた桑畑を見つけました。枝ぶりが故郷の剪定と違う姿を見てひらめき、思い切って持ち主の方に声をかけました」と教えてくれました。木の特性を知り尽くしていた牧野さんは、いただいた木を、乾燥や磨きの工程をへて持ち主に作品として渡し、たいへん喜ばれたそうです。

☆作品を通じての、地域の人との交流が、元気の源

牧野さんは製作について「楽しく



作品と牧野さんご夫妻。数年前に金婚式を迎えられた仲むつまじいご夫婦です。

て1日があっという間です。妻からの「夕食ですよ!」との声に、もうそんな時間かとびっくりします」と話してくれました。作品の数々が評判を呼び、地区の作品展ばかりでなく、東公民館ホールへの展示の依頼も快くうけた牧野さん。遊び心満載ながら緻密な竹細工の昆虫や、余り木も無駄にせず製作したふくろうのキーホルダーなどを、お世話になっている人へあげるのも楽しみとなっています。また、中にピンを組み込んだ瓢箪(ひょうたん)づくりは、宴席でお酒を入れ、大活躍し、場を盛り上げたそうです。作品をとおし、たくさんの方の心を和ませ、地域の人との交流を図っている牧野さん。そんな牧野さんは、妻への感謝の気持ちを忘れない夫であり、孫の喜ぶ顔見たさに、竹とんぼや竹馬を手作りしているやさしいおじいちゃんでもありました。